

令和5年度第1回草津市廃棄物減量等推進審議会 会議録

■日時：

令和5年9月25日（月）9時30分から10時45分まで

■場所：

草津市役所4階 行政委員会室

■出席委員：

天野委員〔会長〕、松村委員〔副会長〕、金谷委員、武内委員、
角委員、村上委員、海東委員

■欠席委員：

井上委員、牧委員、安栗委員

■事務局：

田中部長、太田副部長、古川副部長〔環境経済部〕
小川課長、矢野主査、宇野主任〔資源循環推進課〕

■傍聴者：

なし

1. 開会

開会にあたって、事務局より挨拶
委員自己紹介、事務局自己紹介

【事務局】

草津市廃棄物の適正処理および再利用ならびに環境美化に関する条例施行規則第19条第2項に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており、審議会が成立していることを報告。

2. 会長、副会長の選出について

委員より事務局提案を求める声あり。

事務局が天野委員を会長に、松村委員を副会長に提案し、一同了承。

3. 議事

(1) 第3次草津市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の概要について

●事務局

<資料1について説明>

●委員

家庭ごみの破碎・粗大ごみの排出量が減少した要因として、持込事前申請制度というようなことが書かれているが、確認された上で書かれているのか、推測なのかその辺はどうなのか。

●事務局

実績値としてごみの搬入量が減っている。

●委員

ごみ集積所の収集量はあまり変わらず、クリーンセンターに入ってくる持ち込み量が減ったという理解か。

●事務局

クリーンセンターへの持ち込みが、令和元年度から急増したことによって、令和3年の10月から、第3次計画が始まる計画期間前の施策ということで事前申請制を実施させていただいて、1日の受付件数を一定の件数に制限をさせていただいたので、持ち込みの量というのが大分減っている。

●委員

事前申請制を導入しても減るとは思えない。

他市事例では、事前申請制を導入した場合、他市から入ってきたと思われるものが減ったという例はあるが、溜めていたものを持ってこられる場合、減り続けていくことは考えにくい。

●事務局

来年度以降の計画の進捗管理においてその辺の観点も見ていく。

●会長

収集ごみが増えたということもないのか。

●事務局

家庭系の収集ごみが増えたということもない。

(2) 計画の進捗状況について

●事務局

<資料2について説明>

●委員

概要版の資料2の最初の第1章の一番下のところで、「ごみの減量が進んでいない場合、令和7(2025)年度および令和11(2029)年度に、計画目標の達成に向け、施策の見直しおよび新たな施策展開に取り組みます」となっているため、それをするかしないかの議論に耐えられるだけのデータがないと困る。

例えば、施策の1-4という雑紙の分別周知であるが、これをしたらどのくらい焼却ごみ量が減ったのかを測る必要があると思う。

各施策が行われたことによって、どの程度効果があったのかについていうことを把握するための調査を検討されたい。

●会長

組成調査は毎年行っているのか。

●事務局

組成調査については、予算の関係もあるため、毎年は行えていない。

今回、焼却ごみ袋制度の見直しがあるため、今年度は予算をとっているが、来年度も引き続きできるかどうか内部的な調整が必要になる。

●委員

資料2の第3章「ごみ発生量の推計」の「焼却処理量の推計と課題」というところで、草津市の人口増のトレンドを考慮した焼却処理量だと、令和5年度でクリーンセンターの処理量を超えるという予測もされていたと思うが、実際はごみが少しずつ減っていて超えるということにはならないのか。

また、クリーンセンターの処理量を超えることを見越して早急な対策が必要と、書かれているが、危機感をもって何か具体的な対策をとらなくても、今のところ問題ないのか。

それとも、草津市は人口が増加していくから、焼却処理量を超えるかもしれないという危機感を持って何か行っていないといけないのか。

●事務局

ごみの焼却処理量を、令和5年度で確認したところ、35,560トン、下回ってはいるが、やはり今後も人口が増加していくところにあるため、下回っているから問題ないというわけではなく、ごみの量を抑制していく、2Rに重点を置きつつ、3Rを推進していくというのが当課の考えである。

また、35,560トンというのは、稼働日数が280日を想定させていただいておりまして、かなり抑えたような日数にはなっているため、もう少し稼働日数も上げることができるので、たちまちごみが増えてクリーンセンターがパンクするというふうなことではない。

●委員

新しいクリーンセンターができれば、安心してたくさんごみを捨てるという懸念もありましたが、それはなかったのか。

●事務局

家庭系の焼却ごみ類については、令和2年のコロナの影響と思うが、令和2年度が巣ごもりということで、ごみがたくさん出たところであり、そこから少しずつ減ってきている。

一方で事業系については、令和2年度が一番少なかった。

そこから少しずつ増えてきていたが、手数料の見直しを行ったことで、この数ヶ月だが、少し減少傾向を示している。

●委員

草津市のごみ事情や制度について、ここでお話をされていても、市民に浸透していないように感じる。

ここで話されていることは分かるが、それをどういうふうに周知をして、行動に移していくのかが見えない。

ここで議論されていることと市民とのつながりが見えないと思って話を聞いていた。

●事務局

制度の見直しなど行政としての枠組みの中で、ごみ量の減少に繋がるような部分、ごみを減らすということに関すると、一人一人の意識、自分ごととしていかにとらえていただくかっていうことが非常に重要なことだと認識はしている。

行政としても課題だと感じているが、そのあたりについて、ごみ問題を考える草津市民会議という組織で、啓発とイベントを実施している。ここは制度の議論をし、実

際の活動については、ごみ問題を考える草津市民会議で啓発等をしていただくなど、役割分担という形でさせていただいている。

●委員

私は、実際に活動する側になると思うが、私はこの場で何をすればいいだろうという素朴な疑問が浮かぶ。

●事務局

例えば現在活動されている中で、うまくいった事例をご紹介していただきそれが施策に反映できれば、広く市民の方に還元できるような仕組みができると思う。

今までやってこられたことの視点でご意見等いただきたい。

●委員

皆さん、ごみジャーナルは見ていただいたことはあるか。

ごみジャーナルは、年に一回出しており、行った事業・行事について載せさせていただいている。

今みたいに関心をお持ちだったら、一般会員として、またごみ問題を考える草津市民会議の方にご加入していただけたらありがたい。

今度も10月7日にキラリエ草津という草津駅前の施設でエコライフフェアを開催する。

そこへ足を運んでいただけると、「もう一つ勉強していただけるかな、わかっていただけるかな」と思う。

●事務局

資料4にございます施策1-4「雑紙の分別周知」についてですが、「古紙収集日の統合」に合わせまして、効果的な周知啓発について、検討している。過去に「雑誌・雑紙分別辞典」を作成したが、過去に行っていないような、効果的な周知啓発について、何かご提案がございましたら、御見解をお伺いしたい。

●会長

今すぐでなくてよいか。

もし後日でも、アイデアがあればお伝えする。

4. その他

- 事務局

<エコライフフェア草津2023の開催について説明>

5. 閉会

- 事務局

閉会にあたって、事務局より挨拶